

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名： 見附市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
越後交通(株)	コミュニティバス (おはようライナー)※補助対象外 (A直行)※補助対象外 (B通常) (B2通常名木野ルート)※R4.3.31 まで (B2通常葛巻ルート)※R4.4.1 【運行期間R3.10.1～R4.9.30】	①公共交通計画より明らかとなった交通空白地域の解消のため、R4年4月のダイヤ改正では、ルートを見直し葛巻地区を運行するルートを運行し、92.6%から97.5%の交通空白地域カバー率を実現した。 ②普段公共交通を利用しない人への利用促進を目的とし、市内小学校PTAとタイアップし、小学生の作品を車内掲示したほか、観光協会と協力し、市内をめぐるクイズイベントの際にコミュニティバスの1日利用券を配布し、イベントの際に利用してもらおう事で市内外の方への乗車のきっかけづくりを行った。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 A	コミュニティバス利用者 ・実績172,519人 ・前年164,630人 ※目標達成率93.8%、対前年比104.8%(計画目標数は184,000人) ①ルートの見直しを実施し、R4.4.1から見直したルートでの運行を開始した。新たなルートにより公共交通の人口カバー状況を92.6%から向上させることが出来た。また利用者数も対前年比104.8%と向上させることが出来たが、コロナウイルスの影響により落ち込んだ利用者数を回復させるまでには至らず、目標を達成することは出来なかった。コロナ前動態調査データと比較し、高齢者世代の利用は増加しているが、その他の世代の利用減が見られ原因としては少子化に伴う学生利用の減少、テレワークの推進による就労者の通勤利用の減少が考えられる。 ②計画通り、普段公共交通を利用しない人への利用促進につとめた。	・利用者目標193,000人(地域公共交通計画の目標数) ①利用の傾向を把握し、利用者の実態に即したコミュニティバスの効率的な運行、動態調査等のデータを参考に時刻表の変更等を行う。 ②モビリティマネジメントの推進普段公共交通を利用しない人への、利用促進を行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

協議会名:	見附市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>見附市は新潟県の中心に位置し、面積77.91Km²、人口約41,000人の小規模な市である。近年ではマイカー中心のライフスタイルが進み、公共交通(特に路線バス)の利用者が年々減少しており、バス路線の廃止、減便が行われることで自動車の運転ができない学生や高齢者の移動において利便性が低下してきている。</p> <p>市ではコミュニティバスが交通結節点を経由し、地域間幹線系統であるJRや路線バス等と接続することで、地域公共交通網の整備を進め、住民が自由に移動できる環境を整えることとしている。また、コミュニティバスのルート上に市の主要施設を配置し、都市機能のコンパクト化を図る事で、外出しやすい状況を生み出すとともに、地域間交流を促し住民の健康増進にもつなげるものとする。</p>